



学校教育目標

# 自ら学ぶ子

「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

12月号 令和5年12月1日



## 「ウェルビーイング」～心と体と社会のよい状態～

学校ホームページへ 学校日記に子どもたちや学校の様子を掲載しています。

こうちょう わらしな なおき  
校長 薬科 直希

先日、私が初めて卒業生として送り出した教え子のピアノのリサイタルに行ってきました。小学生時代からピアノに打ち込み、夢であった音楽家としての道を歩み、音楽で多くの人たちに感動を与えている教え子の姿に目頭が熱くなり、とても幸せな時間を過ごすことができました。そのリサイタルには、その当時の同級生同士で結婚し、小学生のお子さんと一緒に来ている教え子もいました。この年末には久しぶりに同窓会をするという約束をして、教え子たちと別れました。また、先月には、校外学習の引率先で、現在教員となって子どもたちを引率している教え子と17年ぶりに偶然出会いました。さらに、別の教え子からは、教員採用試験に合格したといううれしい知らせをもらいました。教員という仕事のやりがいや魅力は、子どもたちの成長を間近で感じられることや自分も子どもたちと共に成長できることだと考えます。さらに、自分が関わった子どもたちが成長し、幸せな人生を歩んでくれていることはこの上ない喜びです。

先日、「ウェルビーイング」の研究をされている方のお話を伺う機会がありました。子どもたちと多くの時間を共にしている教員が、心身ともに健康で幸せな「ウェルビーイング」な状態で子どもたちと向き合うことが、子どもたちの「ウェルビーイング」につながるのとことでした。教員の働き方やなり手不足が話題となる中、子どもたちに教職員がやりがいをもって生き生きと働いている姿を見せられる学校、子どもたちに先生という職業にあこがれを抱いたり、魅力を感じたりしてもらえるような学校現場となるよう努めてまいります。

2年生以上が4月に行った横浜市学力学習状況調査の分析結果が届きました。3年生以上で昨年度の調査と比べて学力を伸ばした児童の割合は、国語82.5%（市77.8%）、算数70%（市67.9%）と市の平均を上回っています。学校教育目標の「自ら学ぶ子」に関連する「学校での学習に進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合は、58.2%（市57%）で市の平均を超えています。また、本校で力を入れて取り組んでいるコミュニケーション力に関連する「自分の考えを、相手にわかるように伝えている」と回答した児童の割合も60%（市55.4%）で市の平均を超えています。「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしている」と回答した児童の割合も、46.8%（市43.2%）で市の平均を上回っています。このように学校として力を入れて取り組んできた成果が、数値として表れています。子どもたちの成長を身近で肌で感じると共に、データとして実感することで我々教職員の「ウェルビーイング」は、さらに高まります。引き続き、学校に関わる誰もが「ウェルビーイング」を感じられる「学幸」を、子どもたち、保護者、地域の皆様と共にめざしてまいります。